

眼科



眼科 高山 朋子

2023年4月より、呉羽総合病院眼科へ非常勤医師として就任いたしました。現在、当院眼科では、栃木県の獨協医科大学病院から非常勤医師が3名、月・木・金曜日で外来診療をしております。その中で私は木曜日を担当させていただいております。

私は、栃木県出身で、獨協医科大学卒業、同大学病院で臨床研修を終えて眼科医となりました。現在、眼科6年目として勤務しております。

当院と獨協医大は、40年以上前に関連病院になったと伺いました。実は私の父も当院での勤務歴があり、40年を超えて同じ病院で勤務できることに、縁の深さを感じております。

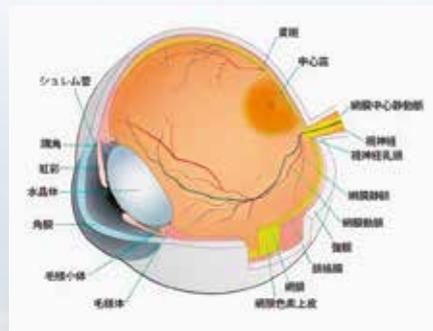
さて、私は眼科全般、特に角膜や白内障を中心に勉強しております。大学病院では主に白内障手術を執刀しております

が、角膜手術や硝子体手術も先輩方にご教授いただきながら執刀しております。外来では様々な疾患や難症例の患者様に出会うことも多く、角膜、水晶体、網膜、視神経、そのほか全身疾患に関連する疾患なども経験しているため、当院においてもその経験を活かせればと思います。

眼疾患は多数あります。2019年度の全国調査では、日本の視覚障害の原因疾患は第1位が緑内障、第2位が網膜色素変性症、第3位が糖尿病網膜症、第4位が加齢黄斑変性症でした。では、眼の構造、そして主な疾患について解説していきます。

眼の構造について

眼球は、外からの光を取り入れて、その刺激が角膜、水晶体、硝子体といった眼球の中を通り、網膜を介して電気信号となって脳へ届けられ、視覚を認識します。視力低下を生じた場合は、この光の通り道や電気信号の伝達に原因があることが考えられます。



出典：<https://www.nichigan.or.jp/public/disease/structure/item01.html>

1. 白内障

水晶体というレンズが濁る病気です。原因としては、加齢によるものが最も多く、早い方では40歳代から始まり、80歳以上では100%の方が白内障になります。他の原因には、糖尿病、アトピー、ステロイドの内服などがあります。症状は、くもりやまぶしさ、進行すると視力低下を起こします。自覚症状が軽度であれば、まだ経過観察です。

進行予防には点眼薬がありますが、視力低下が生じて不自由になった場合は、手術が必要となります。当院でも白内障手術ができますので、ご希望がありましたらお気軽にご相談ください。

2. 緑内障

視神経の障害により、視野障害を生じる病気です。主な原因は不明なのですが、「眼圧」という眼球の圧力が高くなると、神経が押しつぶされて徐々に視野が悪化することがわかっています。

「視野」とは私たちが見えている全体の範囲のことであり、周りから徐々に障害されていきます。普段、両眼で過ごす分には気づきにくく、健診で指摘されるという場合が多くあります。そして視野は一旦悪くなると、その部分は元には戻らず、進行も止められません。よって、少しでも進行を遅らせるための治療が必要になります。最初は点眼薬（4～5種類あります）で眼圧を下げる治療をして、それでも眼圧が下がらなければ手術が必要になります。



### 3. 糖尿病網膜症

網膜の血管や神経の障害を生じる病気です。糖尿病とは血糖が高いことにより全身の血管に負担がかかる病気であり、三大合併症として、腎症、神経障害、網膜症があります。初期であれば、軽い網膜の出血程度ですが、悪化すると血管が詰まり、網膜が酸素不足になります。その結果、新生血管という弱い血管が生えて黄斑浮腫や硝子体出血（眼球内の出血）、さらには網膜剥離になると失明に至ります。黄斑浮腫を生じた場合は、眼球に注射（抗 VEGF 薬硝子体注射）を、酸素不足の部分にはレーザー治療を行います。網膜剥離に至った場合は手術が必要となります。当院では、硝子体注射、レーザー治療の対応が可能です。

### 4. 加齢黄斑変性症

網膜の下にある脈絡膜から新生血管が生じ、網膜を障害する病気です。原因としては、加齢や喫煙、紫外線、高脂肪食

などがあります。その新生血管から水が漏れて浮腫を生じたり、血管が破裂して出血を生じたりすることで、歪みや視力低下を生じます。新生血管に対しては、抗 VEGF 薬の硝子体注射が必要になります。出血を生じた場合は手術が必要になります。

### 5. その他（老眼、角膜疾患、感染症）

視力低下を自覚したり、ピントが合いづらくなった場合は、一度視力検査をおすすめします。加齢により、ピント調節が難しくなることを老眼といいます。その場合はメガネで調節することが必要です。

眼の感染症はいつでも起こり得ます。眼をこすったり、植物や土などが目に入ったり、コンタクトレンズを使用している方も感染症が注意となります。充血や目やになどの症状が強い場合は、早めの受診が必要になります。

適切な医療を提供すること、患者様が

ご自身の病気、状態を理解できるように説明することを心がけております。気になることがあれば、いつでもお気軽に相談してください。どうぞよろしくお願いたします。



診察の様子

## 社団医療法人呉羽会 くれば訪問看護ステーション



くれば訪問看護ステーションでは、看護師が主治医の指示のもとに、ご自宅を訪問して、病気や障害をもち療養されている利用者とその家族をサポートしています。地域の方々といれあ

いを大切にし、皆様が住み慣れたご自宅で安心して療養できることを目指しています。

日常生活に介護を必要とせず外来通院が可能な方から、医療依存度の高い

方まで幅広く支援いたします。特定疾患の方、がん患者さんのターミナルケア、在宅酸素、吸引、人工肛門、人工膀胱、胃瘻、尿道カテーテル、点滴、中心静脈カテーテルの患者さんなど、どのような状態の方に対しても在宅療養生活に私たちが寄り添い支援いたします。

御気軽にご相談、ご連絡をお待ちしております。



TEL.0246 - 77 - 1678  
FAX.0246 - 88 - 6026

### 地域連携支援室

- TEL. 0246 - 63 - 2181 【代表】内線 2161
- TEL. 0246 - 62 - 3178 【直通】
- FAX. 0246 - 62 - 2035
- E-mail renkei@kureha-hosp.com
- <https://www.kureha-hosp.jp/>

- 発行日 令和6年5月
- 発行 社団医療法人呉羽会 呉羽総合病院  
〒974-8232 いわき市錦町落合1番地-1  
TEL.0246-63-2181  
FAX.0246-63-0552  
URL <https://www.kureha-hosp.jp/>
- 発行人 田中 稔
- 編集 地域連携支援室